

奥利根水源の森の翼手類

飯島正広 (有 アジアネイチャービジョン)

長谷川善和 (群馬自然史博物館名誉館長)

土屋公幸 (株 応用生物特任研究員)

吉行瑞子 (前 東京農業大学教授)

群馬県利根郡みなかみ町藤原に位置する奥利根水源の森、吾妻郡八ッ場ダム周辺において翼手類の調査を行った。奥利根水源の森は約 1400ha の国有林であり、天然ブナ林が主体を占める。今回の調査では群馬県内における翼手類の基礎情報の蓄積するとともに、環境教育のために日本産のコウモリ全種の生態図鑑を作ることを目的としている。そのためまずは本州エリアのコウモリを捕獲し生きた状態での生態を記録し、また群馬県のコウモリ達の生息情報を確認するために調査を行った。

調査は、奥利根水源の森においては 2016 年 7 月 28 日から 11 月 30 日迄の 20 日間、八ッ場ダム周辺においては 2016 年 9 月 11 日から 10 月 20 日迄の 8 日間実施した。八ッ場ダムにおいては共同研究者の吉行博士が八ッ場ダムの環境評価委員のため、ダム周辺の小哺乳類～コウモリーの調査を同時に行うためのものだった。調査は日中と夜間においてバットディテクターを用いて生息確認を行い、夜間はかすみ網による飛翔個体の捕獲調査を行った。

許可書の到着が申請から 5 月申請から 2 ヶ月近く経ってしまったため、調査は遅れて始まった。著者が住むみなかみ町藤原から調査地までは車で 30 分と近いので、天気が良ければ可能な限り森に通った。しかし昨年度は天候が不順で霧雨の降る気象条件も多く、また標高も 1400 メートルもある関係でガスが出る日がとても多かった。

バットディテクターでは、以下の 3 種類のコウモリの音声を確認した。

20KHz：恐らくヤマコウモリーこの種は非常に高く飛び飛行速度も早く力強い。

40KHz：恐らく Myotis (ホホジロコウモリ類は種類多く音声のみでは同定不可)この種は低く飛び度々私の目の前まで来てターンして行き、どちらかというといらひら飛ぶ飛行形態だった。

60-65KHz：コテングコウモリ この種も比較的低くひらひら飛ぶ飛行形態だった。近くの八木沢ダムのトイレに夏場コテングコウモリが張り付いていることが度々あった。可能性としてはコテングコウモリが考えられる。

以上 3 音声を目視しながら収録した。

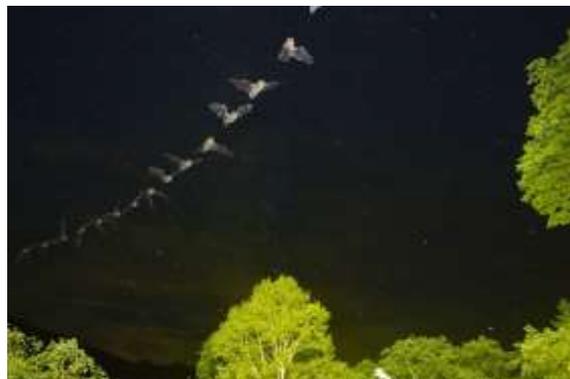
一方、かすみ網を用いて飛翔個体の捕獲を試みたが、捕獲できなかった。このため、本調査では、撮影した写真からはコウモリ種の同定はできなかった。捕獲のためのカシミ網はブナ林の林道にまんじ型で設営したが、カシミ網の手前でターンされてしまい、捕獲することができなかった。カシミ網を外すとまたそこを通過して飛翔することから、当然コウモリにはカシミ網を認識しているものと推測された。音声のみでは種同定はできないため、今後、捕獲個体の調査を行い、音声との整合性を確認して行きたい。なお、本調査は

環境省および群馬県から鳥獣捕獲許可証の交付を得て実施した（許可の年号と番号：平成28年度環境省第1607282号、群馬県自環第7434-7号）。

コウモリの調査地



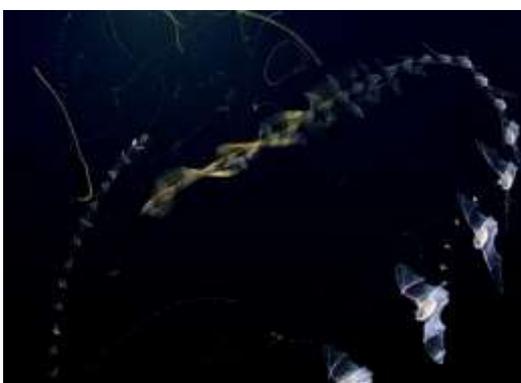
調査地 奥利根水源の森



目の前でターンするコウモリ



月夜で目視出来たコウモリ



蛾を追って捕獲するコウモリ

キーワード：翼手類，かすみ網，バットディテクター